

問題解決型救急初期診療 第2版

田中和豊 著

＜書評者＞ 徳田安春（筑波大大学院教授/筑波大病院水戸地域医療教育センター・水戸協同病院総合診療科）

『問題解決型救急初期診療』の第2版がついに出版。単独の著者によるマニュアルなので読みやすい。米国などで臨床経験を十分に積んだ著者の経験と英知が整理された「鉄則」と「ポイント」は、現場で大変役に立つ。箇条書きで書かれており、記憶に残りやすい。内容のレベルは初期研修医に合わせてあるが、ベテラン医が救急当直をすることが多い臨床現場では、ベテラン医にとっても知識を再確認するチェックリストとしても役に立つ。

イントロダクション編の中で、感銘を受けた文章をいくつか挙げてみる。「マネジメントを変えない検査は原則としてしない」「検査にも治療効果がある場合がある」「大部分の common disease は、パターン認識（直感的診断法）で対

応できる」「救急室では、必ずしも確定診断にたどりつく必要はない」「コンサルテーションは適切な人を適切なタイミングで呼ぶ」などの文章は、まったくもって同感である。

イントロダクション編から続く本書のコア部分は、症状編、外傷編、救命・救急編である。症状編では、26の主要症状を取り上げ、アルゴリズムを多用した診断のポイント、重要疾患の治療法や薬剤投与量まで記載している。特に症状解析の一般論と痛みに対するアプローチは重要項目であり、研修医にとっての必須項目である。検査へ偏重しがちなわが国の現場では、病歴と診察所見の重要性が貫かれている本書がはたす役割は大きい。治療法や薬剤投与量については、やや画一的であるがエビデ

ンスに基づいており、救急初期治療の現場では妥当なレベルといえる。もっともこれは著者も述べているように、治療法は単一の種類ではないので、研修医は本書に基づいて個々の治療薬を選択する場合、指導医や上級医に相談して確認をとることが必要である。

著者は系統的診断の重要性を力説しており、アルゴリズムを用いて基本部分を説明している。ただ、エキスパートによる直観的迅速診断は、系統的診断知識を動員したメンタル・シミュレーションから得られるというのが、評者の理解である。すなわち、臨床エキスパートは、豊富な臨床経験に基づいて症候学的アルゴリズムを自身の頭の中に叩き込んでおり、メンタル・シミュレーションで迅速な系統的診断を行っているのである。

●B6 変 頁 608 2011 年
定価 5,040 円
(本体 4,800 円 + 税 5%)
[ISBN978-4-260-01391-8]
医学書院 刊